

多職種協働による在宅チーム医療を担う 人材育成研修ニュース No. 9

西区役所高齢・障害支援課
電話：320-8410
令和7年2月発行

西区役所では、地域包括ケアシステムの推進に向けて、平成27年度より西区在宅医療相談室と連携し「多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成研修」を開催しています。令和6年度は認知症の早期発見、早期対応をテーマに「認知症患者対応における多職種の連携」について講義とグループワークを実施しました。西区において医療や介護に関わる多職種の方が、顔の見える関係を作り、情報交換する機会となりました。



「多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成研修」

日 時：令和6年12月4日（水）19時～21時

場 所：西区役所3AB会議室

参 加 者：医師・薬剤師・看護師・ケアマネジャー・介護福祉士・
地域包括支援センター職員 ほか

参加人数：35名

内 容：【講義】「認知症診療における多職種連携の重要性」

諸星クリニック

院長 渡部 廣行先生

【グループワーク】

「認知症が疑われる方への早期対応や連携」について事例検討



講義：認知症診療における多職種連携の重要性



諸星クリニック 院長 渡部廣行先生より、「認知症診療における多職種連携の重要性」をテーマに講義を行って頂きました。講義では、認知症の概要や横浜市のもの忘れ検診、認知症初期集中支援チームなど、認知症に関連する制度などについてご講義いただきました。

認知症となるプロセス、診断についてや、加齢によるもの忘れと軽度認知機能障害（MCI）・認知症の違いについてなど、図解を交えながらの分かりやすいご説明がありました。

また認知症になっても、ご本人が自分らしい生活を継続できるように、早期発見・対応が必要であり、そのためには関係機関との連携がとても大切になるとのお話がありました。

認知症の早期発見や早期対応を行うための連携についての視点やポイントについても教えていただきました。

認知症初期集中チームや認知症サポート医として西区に多大な協力をいただいている諸星クリニックの渡部先生に「認知症診療における多職種連携の重要性」をテーマにご講義いただきました。



グループワーク



「認知症が疑われる方への早期対応や連携」をテーマに事例検討を行いました。
介護サービス利用開始時は特に認知症状等はありませんでしたが、徐々に認知機能が低下しているAさんの様子に周囲が気付いたときを想定し、本人への早期アプローチや連携をどう行っていくのかについて、

- ① Aさんが現在の生活を継続する上でどんな課題がありますか。
 - ② Aさんに対して、どんなアプローチや連携ができそうですか。
- といった内容を中心に、グループワークを行いました。



- ・各グループからは、「本人ができることを継続できるようにサポートしていく」、「関係性を作りながら受診、診断していく」、「本人や家族と相談しながらご本人の意向を確認して、きっかけを見つけて医療へ繋げていく」、「困ったことを口に出せる関係性ができていると支援に繋がりがやすい」、「関係機関と情報共有をして、認知症のサインを見逃さないようにする」等の意見が出ました。
- ・本人自身の希望や今できていることを大切に、家族にも寄り添いながら、それぞれの職種からみた現状課題の擦り合わせや多職種連携をどのように行っていくか等が話し合われました。

参加者からの感想

- ・色々な職種からの考え方を聞くことができ参考になりました。
- ・MCI、認知症初期集中支援チームの理解を深めることができました。
- ・色々な視点、アプローチ、気付きがあり参考になりました。
- ・多職種からの意見を共有することで、自分では思いつかないような項目への気付きにつながりました。
- ・他職種と関わる機会があまりないので、色々意見が聞けて良かったです。
- ・多様なアプローチ方法や連携について考えることができました。



…等の感想がありました。

令和7年度も、在宅医療・介護における多職種連携促進のために、人材育成研修を行う予定です。
是非、ご参加をご検討ください。



西区の在宅医療・介護連携の取組については、
西区のホームページをご覧ください

